

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 宮原小学校 学校協議会

1 総括についての評価

「本年度の自己評価結果の総括」はすべて「目標通りの B」であることに對して妥当であるとの評価であった。不登校の子どもが増えている中、不登校対策に力を入れ、子どもの安心安全を守っていることは評価できる。外国人の子どもが孤立しないことも大事である。

おおむね目標通り達成できていることが理解できた。中には目標を超えている取り組みもある。高い学力を維持する中での目標設定は難しいだろう。話し合い活動の内容が深まっていることは良い。

社会が不安な状況であるが、子どもの平和に対する考え方や、スマホ等の扱いに学校が取り組んでいることが分かった。

子どもも大人も、やる気を持って教育活動に取り組んでほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ④ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を90%以上にする。
- ⑤ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。

○ 各学年の経年調査の児童質問紙結果の数値の状況をみると数値は達成できていないが、学校の組織的な取り組みによる認知したいじめ100%解決や、いじめ不登校対策委員会の組織的対応により安心安全な教育活動について、取り組み内容1および2の評価Aは妥当である。

○ 前年度と比べると不登校児童が0.5ポイント増えたが、不登校児童の改善率75%は非常に良い。不登校対策が進んでいる。

○ 学校の規律を守って、勉学に取り組む環境が整っている。

○ 困難な背景の児童についても、不登校対策ルームの開設は効果がある。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点(誤：平均正答率)の対市比(誤：全国比)を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。

③ 児童アンケートにおける健康生活に関する内容（運動、給食、睡眠）で肯定的に回答する児童の割合を前年度（運動：79.3%、睡眠：75.8%）より増加させる。給食については85%以上の維持を目指す。

④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

○ 話し合い活動の内容が深まってきている。前年度を上回っている。子どもが自ら話したくなる読みたくなる授業をめざして全担任が挑戦した授業は子どもたちの意欲を引き出している。

○ 学力体力ともに向上させようとしているのがわかる。今年の冬は気温が低い日が続き、インフルエンザによる学級休業が複数クラスで発生したことは仕方がなかった。アンケートの結果だけではわからないことがある。子どもは寒い中でもよく外遊びをしている。

○ 学力についてはしっかり高い水準を保ってほしい。

年度目標：【**学びを支える教育環境の充実**】

① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等のICT活用が適さない日数を除く。）

② 第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1※を満たす教職員の割合を90%以上にする。

③ 児童アンケートにおける「本を読むのは好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を69.6%以上にする。

○ 学習端末の活用については、時代に必要な力だと思う。しかし、社会の中でトラブルも多いので、安全面も含めた指導をしっかりしてほしい。

○ 働きやすい職場環境は大事。先生が元気でないと子どもに満足のいく教育はできない。

○ 本を読む子どもが増えているのは良い。

3 今後の学校園の運営についての意見

委員より、近隣の三国本町公園で遊ぶ児童が減ったことや、児童が困った場面について、他の保護者に相談するなどがあり、数年前と比べて健全な状況が継続されているという意見があった。どの職場の大人の世界においてもいじめの根絶は容易ではないが、地域として、宮原小学校の落ち着いた状況について、少子化の中、選択制により他の地域からの入学希望が多いことを鑑み、一定の評価が得られている結果であると判断された。

宮原中学校の生徒の学力も継続して高い水準であるが、小学校の取り組みの結果が良い影響にあるとの評価を得た。SNSの利用が低年齢化する中、対面による話し合い活動に力を入れていることは、時代のニーズに合っている。教員の働きやすさや、地域、保護者との連携を大事にしていくことを確認された。

教育熱心な保護者が多いが、交通マナーは守っていないと感じる。学力と社会のルールなどを引き続き指導してほしい。